今、考える
本人支援
・
家族支援
全12回

認知症の人、とりわけ若年性認知症の人にとって、就労は家族や社会のなかで役割を持って生きるという意味で、より大きな意味を持ちます。その就労の道を開くために、全国に若年性認知症支援コーディネーターが配置されています。「家族の会」の中には、代表や世話人がこの役を担って活動している支部があります。幅広い知識と問題解決力が必要とされるこの仕事の実際と支部活動との関係などについて、徳島県支部の大下直樹代表に報告していただきます。

第5回　若年性認知症の人に対する就労支援の取り組み

「家族の会」徳島県支部代表　徳島県若年性認知症支援コーディネーター　大下　直樹

●はじめに

わが国の若年性認知症の有病者数は、日本医療研究開発機構（AMED）の調査研究によると、2018年10月1日時点で3.57万人、18歳～64歳の有病者数は人口10万に対して50.9と推定されています[1]。高齢者の有病者数に比べると遥かに少ないのですが、当事者と家族は就労等の経済的、子どもの教育など様々な生活課題と向き合わねばなりません。そうした課題に共に向き合い、相談支援を行うために、全国に若年性認知症支援コーディネーター（以下、コーディネーター）が配置されています。筆者も、2016年度に県からコーディネーターの委嘱を受けて以来、相談支援や啓発に奔走しています。本稿では就労支援の実際と課題について考えてみます。

●若年性認知症の人の就労状況

認知症を発症した人が、就労を継続することの困難さは、支援者の多くが感じることでしょう。ところで、先のAMEDの調査では、調査時点で就労していた方の割合は10.3％（休職中を含む）でした。一方、定年前に自己退職した方は55.9％に上っています。筆者の相談支援の事例からも、就業中の方４人に比して、すでに離職されていた人が50人強と、調査と同様の状況が見てとれます。

●就労支援の実際

就労支援の事例は少ないのですが、支援例を通して本人の就労支援について考えます。

Sさん　49歳　男性

アルツハイマー型認知症と診断を受ける。公務員の専門職として従事している。現場の作業は危険を伴うことがあるため、自宅から自転車通勤が可能な施設での内勤に切り替え、就労を継続している。

本人が、執務環境により一時危機的状況になった。そこで、上司と本人、コーディネーターを交えた話し合いの結果、認知症の症状や環境への配慮が進み、本人と家族を交えた定期的な協議の場も設けられるに至った。

ここで重要な点は、上司や同僚と本人との信頼関係に加え、職場の認知症の理解と対応に向けた前向きな取り組みでしょう。就労を継続するために、まず職場の認知症への理解が不可欠だといえます。Sさんの職場では、本人の状態に合わせて、できることを業務に組み込む工夫がなされています。

さらに、Sさんの安定を考察すると、職場の理解もさ

ることながら、同じ思いや悩みを持つ当事者との出会いがあったからではないかと感じます。冗談を交わし、時に認知症をも笑いに変える仲間がいることが、精神的支えになっていることは間違いないでしょう。

本人の就労を支援する際に重要な点は、一歩先を歩んでいるモデルとなる当事者との出会いの場の設定です。職場では多くの場合、ほかに当事者はいなくて、本人は孤独です。そのような中、家族を含めて交流を深めることは、次のステップへのソフトランディングにもつながります。制度の活用や申請のタイミングなど、当事者同士の情報交換は、コーディネーターのアドバイスを超えて実際的です。当支部では、家族を含めた当事者活動を行なうほか、当事者が筆者や世話人と共に委託作業等[2]を行うなど、次のステップの充実を図っています。そして、就労を“卒業”して障害福祉や介護保険サービスに移行した本人が、この活動にも活き活きと参加しています。この点は、まさに「家族の会」ならではの強みといえるのではないでしょうか。

筆者はまた、行政とも協働して、障害福祉との連携を図っています。介護保険に頼らず、ホームヘルプを含めて障害福祉サービスで支える取り組みです。そうした就労支援で、時に本人のプライドとの折り合いに課題を感じることがあります。本人ができると思うことと実際の能力にギャップがあるが、作業内容には馴染めない。そこをどう埋めるか悩ましい時間を過ごしたケースもあります。そのような中、今、支部がバックアップして、世話人でもある認知症地域支援推進員と賛助会員の法人が、認知症の人に特化した就労支援事業所立上げへの模索を始めています。同じ夢を持つ仲間となら支え合える、そんな居場所が理想です。

会報発送作業をしながら、本人らの会話は盛り上がる

プロフィール

大下　直樹

「家族の会」徳島県支部代表
社会福祉士

1995年～　特別養護老人ホーム相談員 認知症の人との出会い
2000年～2015年　在宅介護支援センター等で介護支援専門員に従事
2006年～2018年　ケアマネの傍ら、大学などで非常勤講師を務める
2011年～　「家族の会」徳島県支部代表
2016年～　徳島県若年性認知症支援コーディネーター

●認知症の人の就労支援、これから

職場では本人が孤独だと書きましたが、職場の管理者等にも同じことがいえます。職域を超えた対応の共有化が今後ますます重要となるでしょう。というのも、定年延長や高齢者雇用の促進が図られており、在職中に認知症を発症する人の割合が、確実に増加すると思われるからです。たとえば、産業医に向けた認知症と就労に関する研修や、認知症の人への支援を強化したジョブコーチ[3]の養成など、施策の充実が望まれます。

---

1 「わが国における若年性認知症有病率･生活実態把握に関する調査研究報告書」国立研究開発法人日本医療研究開発機構　2020

2 養護老人ホーム利用者と共同しての造花の組立て、同老人ホーム等での整備作業などに加え、寺院境内の清掃など委託業務が充実してきている。

3 厚生労働省が主管する職場適応援助者支援事業で配置されている。障害者の職場適応に課題がある場合に、職場にジョブコーチが出向いて、障害特性を踏まえた専門的な支援を行い、障害者の職場適応を図ることを目的としている。配置型、訪問型、企業在籍型がある。

次月号は、介護家族の就労支援･佐賀県支部（仮題）です。

本人登場
私らしく仲間とともに
No. 202

埼玉県支部　菊地（きくち） 大輔（だいすけ）さん（48 歳）～その２～

若年性アルツハイマー型認知症の診断を受けて、無念の退職を余儀なくされた菊地さん。家族の生活を支えることと、家族の支えとを大切に暮らしています。そして今、埼玉県越谷市の認知症サポーター養成講座の手伝いやオレンジカフェに取り組み始めています。

（編集委員　松本律子）

収入ゼロが一番の問題だったが…

傷病手当が切れたあとの収入の確保を考えなければいけませんが、現実は厳しいです。息子は育ち盛りで、教育費など、どこまで面倒を見てやれるのか心配でしたが、傷病手当が切れた時点で再就職できました。

本人交流～認知症カフェ

去年１月に、初めて同じ境遇の方にお会いしました。「暗い」というイメージを持っていたのが間違いだとすぐ気づきました。話していると、みんな笑顔がみられ、好きな音楽の話しなど共通点があり、とてもいい気持ちになりました。終始笑顔でみんな前向きになっておられたのが非常に印象に残っています。

「がーやカフェ」で語り合う

がーやカフェ「注文は…」
（左が菊地さん）

それをきっかけに、認知症カフェ「リンカフェ」にお邪魔しています。

越谷市のカフェ企画や講師などにチャレンジ

今、講演活動をはじめとし、いろんなことにチャレンジして若年性アルツハイマーの方のお手伝いをしたり、地域活性化に貢献したいです。認知症サポーター養成講座の講師、オレンジカフェ「がーやカフェ」の企画などです。ゆくゆくは「リンカフェ」のスタッフとしても活躍したいです。

認知症サポーター養成講座
～すこし慣れてきました?～
（左奥に菊地さん）

認知症になってもできることはたくさんあります。私は軽度ですが、やはり道が分からないときは、恥ずかしがらずに、通行人に聞きます。認知症という言葉だけで判断せずに、もっと理解していただけるとありがたいです。

家族にはいつも笑顔で

妻はいつも親身にいろいろ考えてくれ、感謝しています。息子には病気の詳細は伝えていませんが、私の手料理をおいしいと食べてくれます。家族には辛い思いはさせたくありません。

情報コーナー

本人交流の場
（詳細は各支部まで）

北海道◉9月5日㊊13:15～15:30
本人のつどい→かでる2.7
宮城◉9月1・15日㊍10:30～15:00
本人・若年認知症のつどい「翼」→みやぎNPOプラザ
山形◉9月14日㊌13:30～14:30
なのはな→篠田総合病院
埼玉◉9月24日㊏13:30～15:30
若年のつどい・越谷→越谷市中央市民会館
神奈川◉9月4日㊐13:00～15:30
本人と家族のつどい→横浜市二俣川地域ケアプラザ
静岡◉9月13日㊋10:00～12:00
若年性のつどい→富士市役所
愛知◉9月10日㊏13:30～16:00
元気かい→東海市しあわせ村
京都◉9月18日㊐13:30～15:30
本人・介護家族交流会→ハートピア京都
和歌山◉9月11日㊐13:00～15:00
若年性認知症交流会→ほっと生活館しんぼり
岡山◉9月10日㊏13:00～15:00
ひまわりの会→くらしき健康福祉プラザ
広島◉9月10日㊏11:00～15:30
陽溜まりの会広島→広島市中区地域福祉センター
徳島◉9月17日㊏13:30～15:30
縁の会→県立総合福祉センター
長崎◉9月17日㊏13:30～15:30
認知症の人と家族のつどい（諫早市）→小鳥居諫早病院デイケア室
熊本◉9月3日㊏13:00～15:00
若年のつどい→熊本県認知症コールセンター

新型コロナウイルス感染の影響により、変更ないし、中止となる可能性があります。

会員さんからのお便り

お便りお待ちしています！
〒602-8222　京都市上京区晴明町811-3　岡部ビル２F
「家族の会」編集委員会宛
FAX 075-205-5104
Eメール office@alzheimer.or.jp

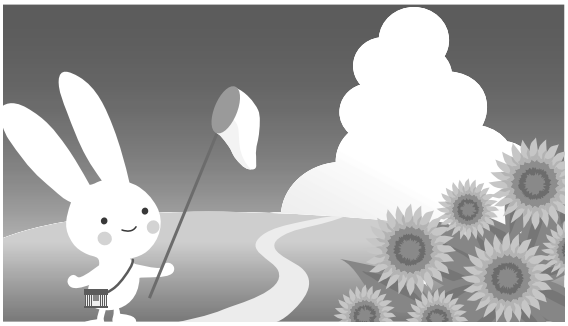
このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。

“ぽーれぽーれ6月号「会員さんからのお便り」を読んで” 仲間意識をもちました

Aさん（女性）

母が 58 歳で若年性アルツハイマーと診断されて、9 年経ちました。当時私は 29 歳。両親は 0 歳のときに離婚しており、兄弟もおらず相談相手はいませんでした。ただ母が祖母にすることを見ていたので、地域包括支援センターに相談し、介護サービスにつなげることができました。社会とのつながりを持たせたくデイサービスへ見学にいきましたが、母だけ若く本人の拒否もありしばらくは昼間独居状態でした。もうすこし何かできなかったか悔やまれます。

その後、3 年おきに体調を崩し入院するたびに認知症が悪化。今は寝たきり、胃ろうです。特養にも非常によくしていただきましたが、看護師の体制の問題から胃ろうを機に退所、現在は有料老人ホームで過ごしています。今回はお便りコーナーに若年性の方が多く、勝手に仲間意識をもちました。アルツハイマーが憎いです。似た境遇の身として、応援している仲間がいると言いたいです。お便りコーナーはみなさん女性ですね。そんな私も女性ですが…



“ぽーれぽーれ6月号「様々な申請手続きに走りまわって」を読んで” 診断直後に相談先がわかり救われました

岡山県　Bさん（60 歳台　男性）

妻が定年退職間近の時、認知症ではないかと職場から言われて受診しました。その結果、アルツハイマー型認知症の診断を受け、妻はもちろん、私もショックでした。病名を告げられ妻と一緒に落ち込んでいた時、診察室にいた看護師さんが「これからのことをアドバイスしてくれる所がありますよ」と言って、連絡先が書いてあるチラシを渡してくれました。

1 週間程は、妻も私も何もする気になれませんでしたが看護師さんが教えてくれた所に電話をしてみました。そこは「若年性認知症支援センター」という所でした。「これから長いお付き合いになりますので、その都度一緒に考えていきましょう」と言われた言葉は、今でも忘れられません。電話をした数日後に、センターから 2 名で我が家に来てくれました。私達の今までのこと、心配ごと、これからの希望等を聴いてくれた後、必要な手続きの内容と窓口、生活で気をつけること等を具体的に教えてくれました。

今では、若年性認知症の本人と家族が参加できる「ひまわりの会」にも夫婦で参加をして、家族同士のつながりもできました。センターは、今では、どの県にもあるようですので、一度連絡をしてつながっておくことをお勧めします。

死ぬまで女性として…

東京都　Cさん（40 歳台　女性）

母（86 歳）はコロナ前からグループホームでお世話になっています。まだしっかりしており、お風呂は女性職員の介助でないと入りませんでした。他の方が男性職員に入れてもらっているのを見て「私がわからない状態になっても、絶対に男の人に入れてもらうのはイヤ！　ちゃんと施設の人に言ってね！」と私は頼まれていました。コロナも終わりに近づく今、母は男性職員の介助でも「ハイ、ハイ」とお風呂に入ることがあるようです。母の気持ちは自分のこととして考えても、よくわかるので、施設に女性職員の介助にしてほしいとしつこく言っていますが、皆さんはどう思われますか?

私は女性として生まれたら、死ぬまで女性として大切に生きたいと思うので、高齢になった時に、人手がないからという理由で、男性にお風呂やトイレの介助をしてもらうことは考えられません。

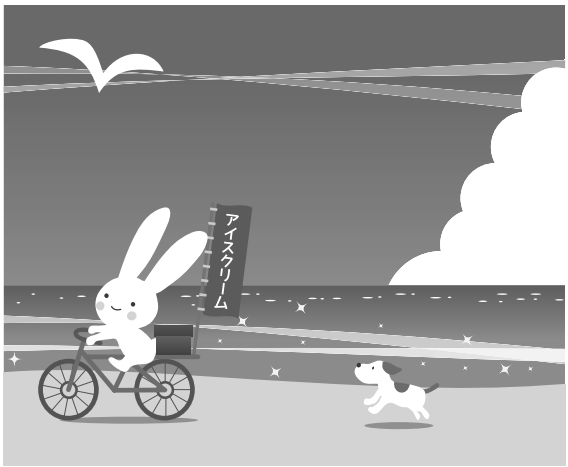
行方不明者の年金

宮城県　Dさん（70 歳台　女性）

7 年前アルツハイマー型認知症と診断された 81 歳の夫が行方不明になり、5 カ月になります。すぐ年金事務所に行き、行方不明届けを提出しました。2 月の年金は受け取りましたが、4 月分からはストップされ、手元のお金で暮らしています。

行方不明になった時、すぐ 110 番し、3 日間捜索していただきました。3 日目に家族に話があると言われ、息子夫婦と私が聞かされたのは、見つからなかった場合、7 年経たないと死亡証明書は出ないということでした。

毎年行方不明になる人が全国で 3 万人いるとテレビで聞いています。その中には、私のように通帳に少ない金額しかない人もおられると思います。どうにか暮らしていますが、年金は老後の生活に使うためのものです。それがストップすると今後が不安でたまりません。



なってからが勝負

愛知県　Eさん（60 歳台　女性）

1 月に「家族の会」に入会させていただき、皆さまの意見、介護の知恵など読ませていただき、私だけじゃないんだと少し楽になっています。

昨年の 7 月義母（96 歳）がグループホームに入居し、ほっとする間がなく、主人の様子がおかしいと気づき、認知症の検査を受けました。診断の結果、思いもよらない診断名（アルツハイマー型認知症）に、主人（74 歳）も私もいまだに受け入れられない状態です。

色々と交流会もあるみたいで、参加したいと思っていますが、主人がイライラや不安が強く、なかなか外出できないのが、今の私のストレスです。「家族の会」の会報を読むのが楽しみです。「なったら終わり」ではなく「なってからが勝負」、夫婦で笑顔で過ごせるよう頑張ります。

介護保険制度の複雑化

島根県　Fさん（50 歳台　男性）

介護保険制度が複雑化して、ケアマネの通訳なしには利用できない制度になっています。ケアマネが本人や家族と相談して作成したケアプランにも、適正でないなどと公的にチェックが入る仕掛けも始まりそうです。セルフプラン作成への道も残し、選択できるように、また、作成しやすくする支援も「家族の会」から国へ提言していただきたい。

※お名前はイニシャルではありません。年齢は「50歳台」等で表記しています。

全国の「家族の会」支部会報から活動を紹介!!

いきいき「家族の会」

まちでも むらでも

編集委員／井垣 敦

長崎県支部 認知症講演会

5月5日（木・祝）長崎県支部と長崎県医師会の主催で、参集50名、オンライン82地点をむすび講演会が行われました。

来賓、主催者の挨拶の後、時津地区秋桜会の坂本佳子氏の介護体験発表では、若年認知症を発症した小学校教諭を務められていたご主人の診断時に「退職は進行を早める。希望通り定年まで本人を支えてサポートすべき」との医師からアドバイスを受けて、有り難かった。と話されました。特別講演では川崎幸クリニック院長で「家族の会」副代表理事の杉山孝博先生が認知症をよく理解するための9大法則・1原則を説明されました。

介護体験では介護により、ご家族で一層絆が深まった様子に感動しました。杉山先生の講演では、今まで感じてきたことや経験を言語化していただき、納得できて心が救われました。対応の仕方が理解でき、看護に役立てます等、参加者の方からの感想がありましたと世話人の太田栄子さんは報告しています。

認知症の理解が深まった杉山孝博先生の講演

鹿児島県支部 鹿児島市「おかえりサポート」周知に協力しています

鹿児島市認知症おかえりサポートシステム「おかえりサポート」は市の LINE 公式アカウントを活用して、認知症やその疑いにより行方不明となった登録者の情報を協力サポーターに配信する事で行方不明者の早期発見につなげる取り組みです。

行方不明者が発生したら、警察に行方不明届けを提出、警察は県警 HP にて行方不明者手配を公表。その後、市 LINE アカウントにて情報提供依頼を発信し、協力サポーターに届きます。協力サポーターはこの早期発見に協力いただく方々のことです。鹿児島市内在住に限らず、市の LINE アカウントを友だち登録し、受信設定することで協力サポーターになることが出来ます。

鹿児島県支部はこの取り組みの周知に協力しています。誰でもよく利用する LINE を活用した取り組みで、一人でも多くの認知症本人、家族の安心につながれば良いと思います。

市の HP の二次元コード